

11月3日——第4回合同ハイキングに参加して

大 阪 西 森 生

颯爽とハイキング! 恰も紅葉は錦の幕をめぐらし、菊花はいやが上燎爛薫る明治節の佳き日、快晴に恵まれた爽涼の1日を京阪神天文團體の第4回合同ハイキングが催された。

京阪電車 淀驛に落合つた京都支部・京星會8名と、大阪支部・大阪天文研究會6名の参加者が互に久闊の挨拶を交し、去る6月19日皆既日食に花山第3觀測隊が、宿舎と觀測場に充てたる遠輕家庭學校副校長鈴木良吉先生を大口周作氏が紹介せられ、遙々と北海道より西下された同先生と行を共にする光榮に浴し、やがて來春生れんとする協會北見支部の支持と後援が力強く約束された事は、本日の合同ハイキングを最大に有意義ならしめた。

淀驛 迄出發を見送られて病氣不参加の坂井弘氏(京)と別かれ、一行は淀城趾を遠望しつつ淀町を過ぎ淀大橋を過ぎ淀川堤防に沿ふて歩を運ぶ。隊伍は三々五々京阪兩支部員は早や10年來の知己の如く打解けて話は天文談に、プラネタリウムや生駒山天文臺が噂される。まだ元氣な處で行をさきはふ爲に記念撮影し、亦急に商用旅行に出掛けられる山崎幸夫氏(阪)^{イモアサヒ}と一口に別かれ、道を南東に巨椋池に差ししかゐる。

椋巨池 は元周圍16秆烟水渺泛風光明媚な幽幻境なりしも、最近に埋立てられて畑となり火星の運河?の模型が縦横に通じて居る。が西側の小巨椋池は昔乍らの姿を止め、芦茂り・蓮生ひ・水禽囀り・遠く連山が霞み繪の如く、層雲が青空を白繪具で模様を書き小春日和の陽光は燦々と降りそゝぐ。京星ハイクの歌「サツサ行かうよ山越へ野越へ……星を語つて……清氣を吸つて……集まつて行かう」¹と和氣靄々と觀世を過ぎ安田を過ぎ、伊勢田神社に詣で竹籬を踏分け國道に沿ひ、電柱の林立で町近きを知り、茶畑を過ぎ軌道を越へ9秆踏破して宇治に着く。

平等院 の南門に歩を入れると正面の霞む山頂に白銀に光る一點——雙眼鏡が忙がしく活躍して——花山天文臺のドームをまことに見事に發見する。境内の物寂びた景觀をカメラに収めて宇治川中ノ島に陣を布き、何はともあ

11月3日第4回合同ハイキング (大阪 西森撮影)



津 西 宇 山 佐 吉 山
 久 井 鈴 森 大 野 崎 木 伊 徳 岡 吉 ？ 高 田
 木 口 達 永 澤 井 中

れ早や14時空腹を訴ふる事頻りなるにより兵糧の口を切る。發刊匂々の「圖説天文講堂」が2冊取出されて珍らしい圖繪に見入る。例の大阪支部のサインが蒐められ此の間に大口氏の御好意によつて船が用意され、急用にて歸られる吉澤覺文氏(京)と別かれて一同乗船。浅瀬の急流を2人の船頭の渾身の力を棹に托し廻行する。遠く近く山々樹々が水面に映へ次々と展開する幽悠の景觀は嵐山にも似て、2羽3羽數羽の葭きり鳥が船の前を飛交ひ水面の岩に翼を休める。宇治川第1發電所前に船を棄て發電所に案内を乞ひ、特別の取計ひにて内部の參觀を差許され限なく見學。巨大なる源の水力發電機のエネルギー1轉換を目前に見入る。再び船上の人となり源氏物語の螢ヶ淵を須臾にして下り宇治神社の前にて上陸、神社に詣で小公園に昇りて宇治を眼下に一望、とある茶店に一同打寛ぎて慣例の自己紹介を始める。

先づ 宇野良雄氏(京)挨拶を述べれば、西森紀久雄氏(阪)は大阪支部強化満1周年の所感を述べ、大口周作氏(阪)は遙々北海道より來訪された遠輕家庭學校副校長鈴木良吉先生を更めて紹介され、去る皆既日食を契機として同地に勃興した天文熱よりやがて協會北見支部の誕生を報告、鈴木先生は居を

正して人が星によつて結ばれる事程崇高な事は他に求めて得られぬ事を述懐せられ、吉岡久男氏(京)・佐々木正氏(京)・津久井修氏(阪)何れも北見支部の健全なる生誕と発展の言葉を述べ、伊達英太郎氏(阪)も同支部の中心を爲す望遠鏡の優秀と人によつて観測にも實績を挙げられん事を望み、徳永正也氏(阪)・山中正夫氏(京)・田中益造氏(京)も京阪兩支部と北見支部の提携を希ひ、高井博典氏(京)も合同ハイキングが参加者のみならず、延いて全協會員の親睦を圖る所以を力説し、次回の合同ハイキングには近隣の會員を誘合してゞも参加せられん事を述べて自己紹介を終るや、漸く釣瓶落しの秋の日は西山に入り宵闇せまる宇治川のせゝらぎを聞きつゝ名残りを惜みつゝ京阪宇治驛に出で、是より明治館の佳日桃山御陵に参拜の鈴木先生・大口周作氏と一同固く固く永遠に結ばれた握手を交はし、暮色墨繪の宇治に一日の清遊のさよならを告げて乗車、中書島にて京都・大阪組は別かれて再び次回の合同ハイキングを約しつゝ歸路に就く。(11月3日夜記)

上 田 支 部 通 信

去る10月16日14時40分より16時30分迄、支部長宮島善一郎氏は梅花幼稚園内教師會の依頼により天文講演をなした。主として天球座標につき説明し、6時ジョンストン天球儀を携行し、春分・秋分・夏至・冬至等の座標を時環の目盛にて各自に計測せしめ、曆面にある東京の日出・日入による晝夜の長さが正しく一致することを確かめ、聴講者は満足した様子だった。

10月27日17時30分折柄の快晴を機とし、宮島氏よりの通知により、園長スクールトン女史外6名オーバーメ身を包み防寒の用意をして來寮、屋上ドーム内で天體觀測會を催した。高低兩倍率を用ひて月面を心ゆくまで眺め、二重星・スペクトル等も觀測した。其後座談會を催し、宮島氏は質問に應答し、スクールトン女史は流暢な日本語で昨年歸國した際、シカゴ市で見たプラネタリウムに付き話された。其後宮島氏所藏の西暦1907年より以前に吹込まれた舊盤レコードにより過去の聲樂家の演奏を試聴したが、當夜は偶然にもスクールトン女史の誕生日に當る由で、深く感謝の辭を述べ、10時散會歸園せられた。

訂正、追加 「天界」 11月號附録第43頁

7周年 (昭和8年12月21日) 天體運動の興味 理學博士 山本一清

8周年 (昭和9年11月24日) 經緯度測定と天文學 理學博士 山本一清